

2022. 10. 31

アルカリス  
 (株)ARCALISと「ソーシャルローン」の契約を締結

静岡銀行(頭取 八木 稔)では、SDGs への取り組みの一環として、(株)ARCALIS(代表取締役社長 藤澤朋行)に対し、アレンジャーとして、シンジケーション方式による「ソーシャルローン(※)」の契約を締結しましたので、その概要をご案内します。

※資金使途がソーシャルプロジェクト(社会的課題への対処・軽減、ポジティブな社会的成果の達成を目指すプロジェクト)に限定されるローン。ソーシャルローンとしての適合性について、第三者評価の取得が奨励されている。

### 1. シンジケートローンの概要

- (1) 実行日/10月31日(月)
- (2) 組成金額/3,298,000,000円
- (3) アレンジャー・エージェント/静岡銀行
- (4) 資金使途/メッセンジャーRNA(mRNA)医薬品の原薬製造工場建設資金
- (5) 貸出人/静岡銀行、東邦銀行

### 2. (株)ARCALISの取り組み(詳細は(株)日本格付研究所の「評価書」をご参照ください)

○同社は、「RNA 医薬品の研究開発と商業化に取り組むための基盤サービスを提供し、世界の人々の健康寿命の伸長と豊かな人生の実現に貢献します。」をパーパスとして、顧客に対して高品質な医療原薬、製剤を安定的に供給することを目指す CDMO(※)事業者です。

※治験段階から商業化段階にかけて、製薬企業などから委託を受け医薬品の開発と製造サービスを提供する。


○今回、静岡銀行では、同社が福島県南相馬市で取り組む mRNA 原薬製造事業の工場建設資金として、シンジケーション方式によるソーシャルローンを実行しました。

○資金使途は、同社が福島県南相馬市に建設する予定の mRNA 原薬の製造工場に係る建設資金に全額が充当されます。これにより、現状、輸入に頼らざるを得ない新型コロナウイルス感染症のワクチンを、国内で生産する体制を整備することが可能となります。また、mRNA は、がん治療や希少疾患の治療薬としても開発が進められており、今後、さまざまな疾患の治癒に貢献することが期待されています。

○また同社では、製造工場の建設により、東日本大震災で甚大な被害を受けた南相馬市での雇用創出を図ることで、被災地への復興支援につなげていきたいと考えています。

○静岡銀行では、本シンジケートローンの組成を通じて、SDGs の目標達成に資する同社の事業活動を支援するとともに、今後も持続可能な社会づくりに向けて ESG 金融の推進に取り組む方針です。

#### 〈本ソーシャルローンの対象となるプロジェクトの概要〉

内容	mRNA 医薬品の原薬製造工場建設資金
目的・効果	・mRNA ワクチンの国内生産拠点の確立      ・工場の建設による地域雇用の創出
関連する SDGs	 3 すべての人に健康と福祉を

—— ソーシャルローン評価 by Japan Credit Rating Agency, Ltd. ——

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおりソーシャルローン評価の結果を公表します。

## 株式会社 ARCALIS の 長期借入金に Social 1 を付与

借入人	：	株式会社 ARCALIS
評価対象	：	株式会社 ARCALIS 長期借入金
分類	：	長期借入金
貸付人	：	株式会社静岡銀行 ・ 株式会社東邦銀行
貸付金額	：	32.98 億円
実行日	：	2022年10月31日
返済日	：	2025年3月31日
資金使途	：	メッセンジャーRNA（mRNA）医薬品の原薬製造工場の建設

### <ソーシャルローン評価結果>

総合評価	Social 1
ソーシャル性評価（資金使途）	s1
管理・運営・透明性評価	m1

## 第1章：評価の概要

株式会社 ARCALIS は、世界レベルの創薬を実現することを目標とするアクセリドグループのホールディングス会社であるアクセリド株式会社の子会社である。アクセリドグループの中核を担う Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社（ADDP）は、2017年に武田薬品工業株式会社の創薬プラットフォームを継承して事業を開始した「日本初の創薬ソリューションプロバイダー」として、顧客が抱える創薬に関する課題の解決を支援している。ARCALIS は、ADDP を中核とするアクセリド株式会社と後期臨床ステージの製薬会社である Arcturus Therapeutics 社の合併会社として 2021年に誕生した、mRNA 医薬品・ワクチンの創薬支援、受託開発製造事業（CDMO<sup>1</sup>事業）を行う会社である。

<sup>1</sup> CDMO(Contract Development and Manufacturing Organization)とは、医薬品業界における事業体の一種である。治験段階から商業化段階にかけて、製薬企業などから委託を受け医薬品の製造法の開発と製造サービスを提供する。

ARCALIS は、「RNA 医薬品の研究開発と商業化に取り組むための基盤サービスを提供し、世界の人々の健康寿命の伸長と豊かな人生の実現に貢献します。」をパーパスとして掲げ、「健康寿命の伸長」、「感染症リスクの抑制」、「医療アクセス格差の解消」の 3 つを経営方針としている。このようなパーパスおよび経営方針のもと、ARCALIS は経営戦略として、「mRNA 医薬品、開発におけるベストプラクティスへのアクセス提供」、「オープンイノベーションによる mRNA 医薬品創薬支援」、「実績に裏付けられた研究開発支援と原薬と製剤の高品質・安定供給」の 3 つを掲げ、社会的課題の解決に取り組んでいる。

今般の評価対象は、ARCALIS が調達する長期借入金（本借入金）である。本借入金による調達資金は、mRNA 医薬品の原薬製造工場の建設資金に全額が充当される。本借入金の資金用途により、新型コロナウイルス感染症に対する mRNA ワクチンをはじめとする mRNA 医薬品を必要とする人々に対して、ARCALIS が mRNA 医薬品を広範に提供することに貢献するため、社会改善効果が高いと JCR は評価している。

当該資金用途は、ソーシャルローン原則<sup>2</sup>のプロジェクト分類のうち「必要不可欠なサービスへのアクセス（医療）」に該当し<sup>3</sup>、社会的便益をもたらす対象となる人々は、「ARCALIS が mRNA 医薬品を提供する人々」である。持続可能な開発目標（SDGs）においては、目標 3「すべての人に健康と福祉を」への貢献が期待される。また、日本政府による感染症リスクの抑制に係る政策とも整合的である。なお、当該資金用途に係る環境等へのネガティブな影響については、適切な配慮がなされている。

JCR は、ARCALIS が本借入金の調達を通じて実現しようとする目標について、上記のパーパスおよび経営方針と整合することを確認した。また、ARCALIS が定めるクライテリアは適切である。プロジェクトの選定プロセスでは、COO（最高執行責任者）による適格クライテリアへの適合性の検討等を経て、経営陣が関与した上で決定される。本借入金に係る資金管理は妥当であり透明性も高い。また、レポートングについては、資金の充当状況と社会改善効果のどちらも、貸付人等に対して適切に開示される計画である。組織の社会的課題への取り組みについては、ARCALIS の経営陣が社会的課題を重要度の高い優先課題として位置付けていると言える。以上より、JCR は本借入金による調達資金に係る管理・運営体制が適切であり、透明性も確保されていると評価している。

これらの結果、JCR は本借入金について、JCR ソーシャルファイナンス評価手法に基づき、「ソーシャル性評価（資金用途）」を“s1”、「管理・運営・透明性評価」を“m1”とし、「JCR ソーシャルローン評価」を“Social 1”とした。本借入金は、ソーシャルローン原則において求められる項目について基準を満たしており、SDGs および日本政府の SDGs に対する具体的施策にも合致すると考えられる。

<sup>2</sup> ソーシャルローン原則 2021 年度版 <https://www.lsta.org/content/social-loan-principles-slp/>

<sup>3</sup> ソーシャルローン原則は、ICMA が自主的に公表している原則であって規制ではないため、いかなる拘束力を持つものではなく、また明示的に融資を対象とした原則ではないが、ソーシャル性等を判断するためのグローバルに統一された基準として参照する。

## 第2章:各評価項目における対象事業の現状と JCR の評価

### 評価フェーズ1：ソーシャル性評価

JCRは評価対象について、以下に詳述する現状およびそれに対する JCR の評価を踏まえ、本借入金の資金使途の100%がソーシャルプロジェクトであると評価し、評価フェーズ1:ソーシャル性評価は、最上位である『s1』とした。

#### (1) 評価の視点

本項では、最初に、調達資金が明確な社会改善効果をもたらすソーシャルプロジェクトに充当されるかを確認する。次に、資金使途において環境・社会へのネガティブな影響が想定される場合に、その影響が組織内の専門部署または外部の第三者機関によって十分に検討され、必要な回避策・緩和策が取られているかを確認する。最後に、資金使途のSDGsとの整合性を確認する。

#### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

##### 資金使途の概要

本借入金の資金使途は、ARCALIS が福島県南相馬市に建設する予定の mRNA 医薬品の原薬製造工場に係る建設資金である。

##### 事業概要

プロジェクト名称	Project SPICA DS 棟（原薬製造施設）
所在地	福島県南相馬市原町区下太田川内迫 320-60 他
敷地面積	11,222.9m <sup>2</sup>
延床面積*	7679.89m <sup>2</sup>
着工	2022年3月
竣工	2023年7月（予定）

\*：DS棟、守衛室棟、脱水機械室棟、ポンプ室棟、燃料小出槽の合計

#### a. プロジェクトの社会改善効果について

##### i. 本借入金は、資金使途の100%が製薬工場の建設資金であり、高い社会改善効果が期待される。

ARCALIS は、創薬プラットフォーム企業・アクセリード株式会社（出資比率：51%）と後期臨床ステージの製薬企業 Arcturus Therapeutics 社（アークトゥルス）（出資比率：49%）の合弁企業として2021年に設立された、mRNA 医薬品・ワクチンの創薬支援、受託開発製造事業（CDMO 事業）を行う企業である。

アクセリードは、創薬ソリューションプロバイダーである Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社（ADDP）を中核企業とした、アクセリードグループのホールディング会社である。ADDP は、武田薬品工業株式会社の創薬プラットフォーム事業を継承して創業された創薬ソリューションプロバイダーであり、創薬のコアになる製品コンセプト、研究計画の立案から前臨床研究開発までワンストップでサービスを提供する。ADDP は、ARCALIS の設立をはじめとした業務の拡大を企図して、ホールディングス体制へ移行している。

アークトゥルスは2013年に設立された mRNA 医療に特化した製薬会社である。現在は、感染症用 mRNA ワクチンに加え、希少疾患用 mRNA に有効な医薬品の開発を行っている。

これら2社の株主によって設立された ARCALIS は、資金使途の対象となる福島県南相馬市の工場  
で、mRNA 医薬品の原液製造を行うことを予定している。製造に際しては、アークトゥルス  
の mRNA に係る技術を CDMO サービスに活用することを予定している。

ARCALIS は今般資金使途の対象となる工場に、製剤工場（DP 棟）を建設することを予定して  
いる。DP 棟は 2025 年～2026 年頃稼働する予定となっており、これらの工場により ARCALIS は mRNA  
医薬品の原薬から製剤までを CDMO としてワンストップで開発、製造できる機能を兼ね備えること  
となる。

mRNA<sup>4</sup> 医薬品は、新型コロナウイルス感染症のワクチンに利用されたことに代表される。ワクチン  
には、生ワクチン<sup>5</sup>、不活性ワクチン<sup>6</sup>、mRNA ワクチンに分類されるが、mRNA ワクチンは、研究こ  
そされていたものの、新型コロナウイルス感染症までワクチンとして実用化されていなかった。現  
在、新型コロナウイルス感染症のワクチンは国内での生産拠点がなく、輸入に頼らざるを得ない状  
況であり、資金使途の対象となる工場の設立により、今後国内で生産する体制を整えることができ  
る。また、mRNA は新型コロナウイルス感染症以外の感染症に加え、がん治療、希少疾患の治療薬  
としても開発が進められており、今後様々な疾患の治療に貢献することが期待できる。

なお、ARCALIS は mRNA 医薬品の工場を建設し、雇用の創出を促すことにより、東日本大震災で  
甚大な被害を受けた南相馬市の復興に貢献したいと考え、当該拠点を選択している。

以上より、本借入金の資金使途は、ARCALIS が日本の患者を中心により広範に医薬品を提供する  
ことに貢献することから、社会改善効果が高いと JCR は評価している。

- ii. 本借入金の資金使途は、ソーシャルボンド原則のプロジェクト分類のうち「必要不可欠なサービス  
へのアクセス（医療）」に該当する。対象とする人々は、ARCALIS が mRNA 医薬品を提供する人々  
である。

## b. 環境・社会に対する負の影響について

ARCALIS は mRNA 医薬品の原薬製造工場の建設にあたり、建設業者の労働環境の問題、土壌汚染、  
排水汚染等をリスクとして特定しており、それぞれのリスクの発現が最小限にとどまるよう、具体的  
な対応策を定め運用している。JCR は、資金使途の対象が環境・社会に与えるネガティブな影響につ  
いて、適切な配慮がなされていることを確認した。

## c. SDGs との整合性について

### i. ICMA の SDGs マッピングとの整合性

JCR は、ICMA の SDGs マッピングを参考にしつつ、本借入金の資金使途が以下の SDGs の目標およ  
びターゲットに貢献すると評価している。



### 目標 3：すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

**ターゲット 3.8** すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービス  
へのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、  
ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。

<sup>4</sup> 蛋白質に翻訳され得る塩基配列情報と構造を持った RNA のこと。RNA（リボ核酸）は、細胞の核や細胞質中に存在し、DNA とともに遺伝情報の伝達やタンパク質の合成を行う。

<sup>5</sup> 生きたウイルスや細菌の病原性（毒性）を、症状が出ないように極力抑えて、免疫が作れるぎりぎりまで弱めた製剤にしたもの。

<sup>6</sup> ウイルスや細菌の病原性（毒性）を完全に無くして、免疫を作るのに必要な成分だけを製剤にしたもの。

ii. SDGs アクションプランおよびソーシャルボンドガイドラインとの整合性

資金使途の対象となるプロジェクトは、金融庁がソーシャルボンドガイドラインで例示した「SDGs アクションプラン等を踏まえた社会的課題」のうち以下の項目に整合していることを確認した。

「SDGs アクションプラン」等を踏まえた社会的課題：健康・長寿の達成		
対象となる人々：高度医療を必要とする人々、COVID-19をはじめとする感染症患者・濃厚接触者及び感染の恐れがある人々のうち高度医療を必要とする人々		ターゲット
最先端の医療研究施設の設立	必要不可欠なサービスへのアクセス	

## 評価フェーズ2：管理・運営・透明性評価

JCRは評価対象について、以下に詳述する現状およびそれに対するJCRの評価を踏まえ、管理・運営体制がしっかり整備され、透明性も非常に高く、計画通りの事業の実施、調達資金の充当が十分に期待できると評価し、評価フェーズ2:管理・運営・透明性評価は、最上位である『m1』とした。

### 1. 資金使途の選定基準とそのプロセスに係る妥当性および透明性

#### (1) 評価の視点

本項では、本借入金を通じて実現しようとする目標、ソーシャルプロジェクトの選定基準およびそのプロセスの妥当性、ならびに一連のプロセスが、適切に貸付人等へ開示されているか否かを確認する。

#### (2) 評価対象の現状とJCRの評価

##### a. 目標

ARCALISは、「RNA医薬品の研究開発と商業化に取り組むための基盤サービスを提供し、世界の人々の健康寿命の伸長と豊かな人生の実現に貢献します。」をパーパスとして掲げ、「健康寿命の伸長」、「感染症リスクの抑制」、「医療アクセス格差の解消」の3つを経営方針としている。このパーパスおよび経営方針のもと、依然として世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症のリスクを抑制すべく、経営陣および社員が一丸となって日々の業務に従事している。

本借入金は、新型コロナウイルス感染症に対する mRNA ワクチンの原薬を製造する工場の建設に係る資金を調達するものである。JCRは、ARCALISが本借入金の調達を通じて実現しようとする目標として、上記のパーパスおよび経営方針に整合することを確認した。

##### b. 選定基準

ARCALISは、本借入金に係るソーシャルローン・フレームワークにおいて、適格クライテリアを「mRNA医薬品の原薬製造工場」と定めている。

ARCALISは、資金使途の対象である新型コロナウイルス感染症に対する mRNA ワクチンの原薬を製造する工場の建設が上記適格クライテリアを満たすと考え、採用している。資金使途の対象は評価フェーズ1に記載の通り、日本をはじめ世界でワクチンを必要としている人々に対して提供することに資するものであることから、選定基準として適切であるとJCRは評価している。

##### c. プロセス

ARCALISでは mRNA 医薬品の原薬製造工場の建設を資金使途の対象として資金調達することについて、COO（最高執行責任者）が評価および選定を行った上で起案し、経営会議に諮る。経営会議で決議された後、資金調達に関する最終決定機関である取締役会に付議され、承認されることとなっている。JCRは、プロジェクトの選定プロセスに経営陣が適切に関与していると評価している。

なお、本借入金に係る目標、選定基準およびプロセスは、貸付人との面談により開示されることから、貸付人等に対する透明性が確保されているとJCRは評価している。

## 2. 資金管理の妥当性および透明性

### (1) 評価の視点

調達資金の管理方法は、借入人によって多種多様であることが通常想定される。本借入金により調達された資金が、確実にソーシャルプロジェクトへ充当されること、また、その充当状況が容易に追跡管理できるような仕組みと内部体制が整備されているか否かを確認する。

なお、本借入金により調達した資金が、早期にソーシャルプロジェクトに充当される予定となっているか、また、未充当資金の管理・運用方法の評価についても重視している。

### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

本借入金は、資金調達の後、新規投資として速やかに mRNA 医薬品の原薬製造工場の建設資金に全額が充当される。したがって、未充当資金は発生しない見込みである。

また、本借入金による調達資金は、当該ソーシャルプロジェクトのために開設する預金口座に入金され、他の資金とは区別して管理される。入金された調達資金の額と充当状況がわかる管理表を用いて経営管理部が追跡管理を行い、CFO（最高財務責任者）が最終承認を行う。さらに、内部監査室が当該管理表を用いて資金用途および運用状況の適切性を確認するとともに、監査法人が貸借対照表上の現預金および長期借入金勘定が適正であるかを監査することを目的として、当該管理表を対象として外部監査を行うため、統制が働いていると考えられる。調達資金の管理に関する文書等は、ARCALIS の経理規程に基づき、返済期限まで保存される。

JCR は、本借入金による調達資金の充当計画が適切に策定され、そのもとで当該資金が確実にソーシャルプロジェクトへ充当されること、また当該充当状況の追跡管理とその内部統制が適切に図られていること、そして未充当資金は発生しない見込みであることから、本借入金に係る資金管理は妥当であり、透明性も高いと評価している。



### 3. レポーティング体制

#### (1) 評価の視点

本項では、本借入金の調達前後での貸付人等への開示体制が、詳細かつ実効性のある形で計画されているか否かを評価する。

#### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

##### a. 資金の充当状況に係るレポーティング

ARCALIS は、本借入金の資金用途についての概要、事業計画および資金計画について、面談により貸付人へ事前に説明している。本借入金による調達資金は、調達後速やかに建設資金へ充当されるが、貸付人に対しては証憑とともに充当した旨を報告する予定としている。また、建設された工場が売却または毀損等の大きな状況変化があった場合には、その内容を速やかに貸付人に対して開示することとしている。

##### b. 社会的便益にかかるレポーティング

ARCALIS は貸付人等に対して、本借入金の社会的便益として以下の項目を書面にて年に 1 回開示する。

<アウトプット指標>

mRNA 医薬品の原薬製造工場

<アウトカム指標>

mRNA 医薬品原薬の年間最大生産可能量

<インパクト（定性目標）>

mRNA 技術を活用した医薬品・ワクチンの供給により、人々が健康で安全に暮らせる社会を実現する

JCR は、資金の充当状況および社会改善効果のレポーティングについて、貸付人に対して適切に開示される計画であると評価している。

## 4. 組織の社会的課題への取り組み

### (1) 評価の視点

本項では、借入人の経営陣が社会的課題について、経営の優先度の高い重要課題と位置付けているか、社会的課題を専門的に扱う部署の設置または外部機関との連携によって、ソーシャルローン調達方針、ソーシャルプロジェクトの選定基準・プロセス等が明確に設定されているか等を評価する。

### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

ARCALIS は、世界レベルの創薬を実現することを目標とするアクセリドグループのホールディングス会社であるアクセリド株式会社の子会社である。アクセリドグループの中核を担う ADDP は、日本初の創薬ソリューションプロバイダーとして、顧客が抱える創薬に関する課題の解決を支援している。ARCALIS は、ADDP を中核とするアクセリド株式会社と後期臨床ステージの製薬会社である Arcturus Therapeutics 社の合併会社として 2021 年に誕生した、mRNA 医薬品・ワクチンの創薬支援、受託開発製造事業（CDMO 事業）を行う会社である。

前述の通り、ARCALIS は、「RNA 医薬品の研究開発と商業化に取り組むための基盤サービスを提供し、世界の人々の健康寿命の伸長と豊かな人生の実現に貢献します。」をパーパスとして掲げ、「健康寿命の伸長」、「感染症リスクの抑制」、「医療アクセス格差の解消」の 3 つを経営方針としている。このようなパーパスおよび経営方針のもと、ARCALIS は経営戦略として、「mRNA 医薬品、開発におけるベストプラクティスへのアクセス提供」、「オープンイノベーションによる mRNA 医薬品創薬支援」、「実績に裏付けられた研究開発支援と原薬と製剤の高品質・安定供給」の 3 つを掲げる。新規モダリティ<sup>7</sup>には探索段階での不確実性が伴う中、ARCALIS は、親会社であるアクセリドグループが武田薬品工業から引き継いだ研究開発における知見に Arcturus Therapeutics 社で検証された CMC<sup>8</sup>開発プロセスおよび GMP<sup>9</sup>製造における知見を融合させて、顧客に対して高品質な医薬原薬、製剤を安定的に供給することを目指している。

ARCALIS は、自社が取り組むべき社会的課題として、「mRNA 医薬品に対する期待」と「パンデミックにおける感染症リスクの低減」の 2 つを設定している。mRNA ワクチンが新型コロナウイルス感染症の予防ワクチンとして有用性が証明されたことにより、mRNA 医薬品は新たな医薬品モダリティとして誕生した。将来的に発生する可能性があるパンデミックに備えて、mRNA ワクチンを日本で迅速に開発することは、日本のみならず世界の感染症リスクの低減にとって重要であると ARCALIS は認識している。mRNA 医薬品はその応用範囲が広く、感染症のみならず、がん<sup>10</sup>や希少疾患などあらゆる病気の治療薬、予防薬として実用化が期待される画期的な医薬品となると期待されている<sup>11</sup>。これらの社会的課題を解決すべく、ARCALIS は今般の資金使途の対象である mRNA 医薬品の原薬製造工場の建設に取り組んでいる。

ARCALIS では、経営陣で構成される経営会議および取締役会にて、自社が取り組むべき社会的課題とその対応策について議論を行っている。また、工場建設に関しては、医薬品の製造工場の建設について専門的知見を有する外部のコンサルティング会社から、創業時よりアドバイスを受けている。これにより、客観的な意見を取り入れながら、社会的課題の解決に向けた事業の運営を行っている。

<sup>7</sup> モダリティとは一般的には「様式」や「様相」という意味であるが、医療分野においては、医療機器の種類やタイプを表す言葉として使用される。

<sup>8</sup> CMC とは「Chemistry, Manufacturing and Control」の略で、原薬・製剤の Chemistry（化学）、Manufacturing（製造）、Control（品質管理）に関する情報のことを指す。

<sup>9</sup> GMP とは「Good Manufacturing Practice」の略で、製造工場における製造管理、品質管理の基準のことを指す。

<sup>10</sup> 独ビオンテックによる膵臓がんを対象にした初期の臨床試験（治験）で mRNA が再発を抑制する可能性が示された。（出所：日本経済新聞、2022 年 9 月 16 日付朝刊、16 ページ）

<sup>11</sup> 米ボストン・コンサルティング・グループ（BCG）の予測によると、2025 年には新型コロナウイルス感染症以外の感染症のワクチンが登場する見込みである。2035 年までは mRNA 医薬品市場の中心を感染症向けワクチンが占めるが、2035 年には感染症のワクチンが半分を占め、がん治療向けが 3 割、残る 16%が他の病気の治療薬と見積もる。その後もがん治療向けなどの存在感が増すと予想する。（出所：日本経済新聞、2022 年 9 月 16 日付朝刊、16 ページ）

JCR は、これらの組織としての社会的課題への取り組みについて、ARCALIS の経営陣が社会的課題を重要度の高い優先課題として位置付けていると評価している。

## ■評価結果

JCR は本借入金について、JCR ソーシャルファイナンス評価手法に基づき、「ソーシャル性評価（資金使途）」を“s1”、「管理・運営・透明性評価」を“m1”とした結果、「JCR ソーシャルローン評価」を“Social 1”とした。本借入金は、ソーシャルローン原則において求められる項目について基準を満たしており、SDGs および日本政府の SDGs に対する具体的施策にも合致すると考えられる。

【JCR ソーシャルローン評価マトリックス】

		管理・運営・透明性評価				
		m1	m2	m3	m4	m5
ソーシャル性評価	s1	Social 1	Social 2	Social 3	Social 4	Social 5
	s2	Social 2	Social 2	Social 3	Social 4	Social 5
	s3	Social 3	Social 3	Social 4	Social 5	評価対象外
	s4	Social 4	Social 4	Social 5	評価対象外	評価対象外
	s5	Social 5	Social 5	評価対象外	評価対象外	評価対象外

(担当) 菊池 理恵子・新井 真太郎

## 本評価に関する重要な説明

### 1. JCR ソーシャルファイナンス評価の前提・意義・限界

日本格付研究所（JCR）が付与し提供する JCR ソーシャルローン評価は、評価対象である調達資金が JCR の定義するソーシャルプロジェクトに充当される程度ならびに資金用途等にかかる管理、運営および透明性確保の取り組みの程度に関する、JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、評価対象である調達資金の充当ならびに資金用途等にかかる管理、運営および透明性確保の取り組みの程度を完全に表示しているものではありません。

JCR ソーシャルファイナンス評価は、評価対象となる調達計画時点又は調達実行時点における資金の充当等の計画又は状況の評価するものであり、将来における資金の充当等の状況を保証するものではありません。また、JCR ソーシャルファイナンス評価は、評価対象となる調達資金が社会的課題に及ぼす効果を証明するものではなく、社会的課題に及ぼす効果について責任を負うものではありません。評価対象となる調達資金が社会的課題に及ぼす効果について、JCR は借入人または借入人の依頼する第三者によって定量的・定性的に測定されていることを確認しますが、原則としてこれを直接測定することはありません。

### 2. 本評価を実施するうえで使用した手法

本評価を実施するうえで使用した手法は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「サステナブルファイナンス・ESG」に、「JCR ソーシャルファイナンス評価手法」として掲載しています。

### 3. 信用格付業にかかるとの関係

JCR ソーシャルファイナンス評価を付与し提供する行為は、JCR が関連業務として行うものであり、信用格付業にかかるとは異なります。

### 4. 信用格付との関係

本件評価は信用格付とは異なり、また、あらかじめ定められた信用格付を提供し、または閲覧に供することを約束するものではありません。

### 5. JCR ソーシャルファイナンス評価上の第三者性

本評価対象者と JCR の間に、利益相反を生じさせる可能性のある資本関係、人的関係等はありません。

## ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、借入人および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。JCR ソーシャルローン評価は、評価の対象であるソーシャルローンにかかる各種のリスク（信用リスク、価格変動リスク、市場流動性リスク、価格変動リスク等）について、何ら意見を表明するものではありません。また、JCR ソーシャルローン評価は JCR の現時点での総合的な意見の表明であって、事実の表明ではなく、リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR ソーシャルローン評価は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。JCR ソーシャルローン評価のデータを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR ソーシャルローン評価のデータを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

**JCR ソーシャルローン評価：**ソーシャルローンにより調達される資金が JCR の定義するソーシャルプロジェクトに充当される程度ならびに当該ソーシャルローンの資金用途等にかかる管理、運営および透明性確保の取り組みの程度を評価したものです。評価は 5 段階で、上位のものから順に、Social 1、Social 2、Social 3、Social 4、Social 5 の評価記号を用いて表示されます。

## ■サステナブルファイナンス等の外部評価者としての登録状況等

- ・環境省 グリーンボンド発行支援者登録
- ・ICMA (国際資本市場協会オブザーバー登録) ソーシャルボンド作業部会メンバー
- ・UNEP FI ポジティブインパクト金融原則 作業部会メンバー

## ■その他、信用格付業者としての登録状況等

- ・信用格付業者 金融庁長官（格付）第 1 号
- ・EU Certified Credit Rating Agency
- ・NRSRO：JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

## ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官（格付）第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル